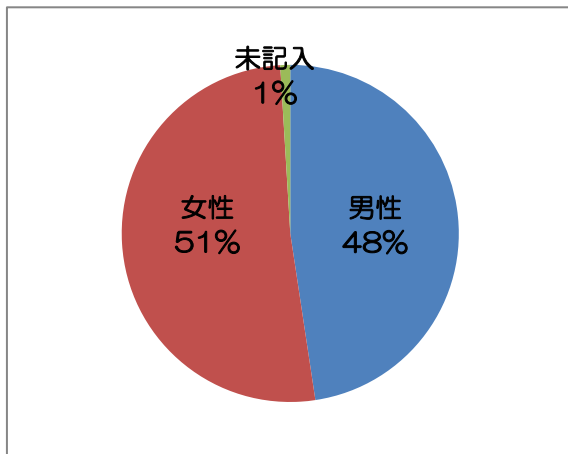


第1回「加害者家族と人権」 NPO 法人 World Open Heart 阿部恭子さん
講座アンケート結果

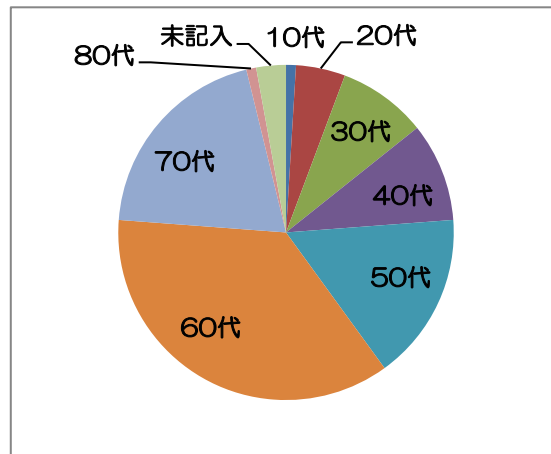
当日参加者数 136名

アンケート回収数 105通 満足度平均（100点満点中） 83.66点

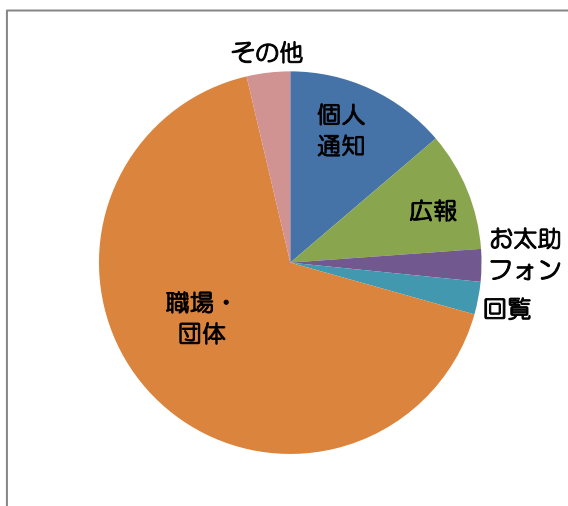
男女別参加者数



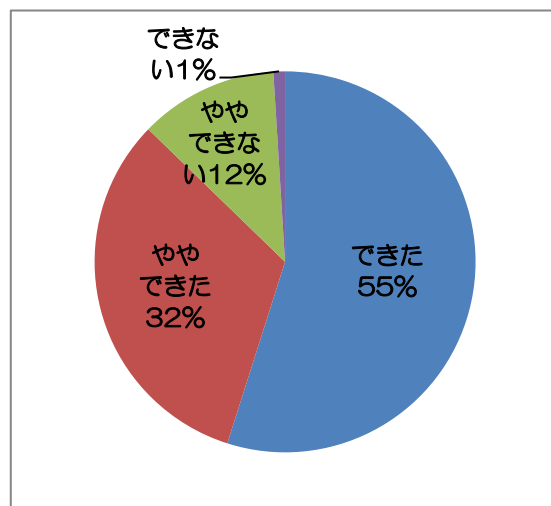
年代別



受講動機



講座の内容が理解できましたか？

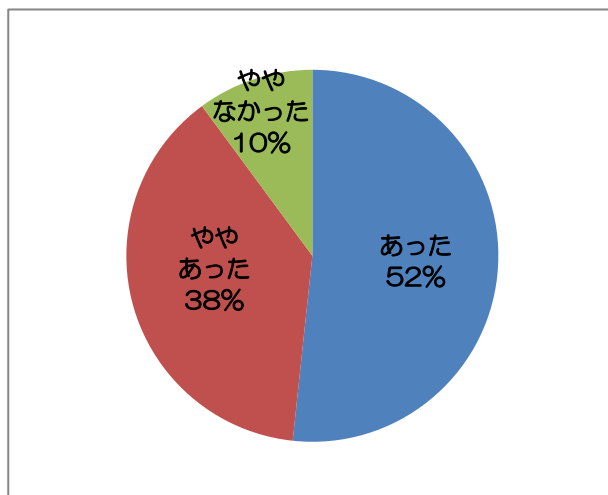


◎理解できなかった理由

- ◆ 事件の内容と加害者と家族
- ◆ マイノリティという言葉が使われていたが、私自身ボンヤリの理解だったのでスマホで意味を調べて納得した
- ◆ 加害者家族の人権についての学習は初めて学びました。被害者の家族等の報道は各マスコミから報道されているが、加害者家族の報道は少ない。
- ◆ 自分の周りに加害者はおられないと思っているので、もう少し考えてみたい。
- ◆ 話の筋がずれていった。
- ◆ 難しい言葉、字が解れば理解できると思うのですが、重要なところは黒板に書いてもらおうと良い。
- ◆ 一般的に犯罪被害者に注目が高まってきた今日、加害者、更にはその家族について、報道で見られる情報は多くないと思います。そういった人権感覚をみながくために必要なこととは？

- ◆ もう少し、一つの事件でストーリーだった話があれば理解しやすいので。
- ◆ 支援の方法等は具体的によくわからなかった。
- ◆ 加害者の家族にかかわって、表に出ない部分の事件の背景を知ること、その人の更正の助けになるのは理解できるが、何かマスコミの悪口をいっているように思われた。
- ◆ 被害者家族が悪く言われる事が多く、加害者が表に出て来ないことが多いと思われる。(いじめ他)
- ◆ 日常なことだから(自分がその立場。いつ加害者になるかはわからない)
- ◆ 加害者(犯罪をおこしたもの)の周りの者(妻・夫・家族・子)には罪はない。何も悪くないのにひどい仕打ちを受ける。個人を大切にすることをしっかり育てたい・・・育てていきたいと思いました。
- ◆ (ことばが単調で)眠っていた。
- ◆ 心理を理解することはとてもむずかしい・・・と思いました。
- ◆ 私には理解ができなかった。
- ◆ 身近にはおきない話であり、具体性が少なかった感じで理解しづらかった。

講座からなにか発見がありましたか？



◎どのような発見がありましたか？

- ◆ 他人にも自分にもやらない事を常に頭に入れておく。
- ◆ 気づいていない差別があったように思う。
- ◆ 犯罪報道の見かた。
- ◆ 支援団体があったのを知らなかった。
- ◆ ありのままを受け入れること。
- ◆ だれでもが加害者・加害者家族になる。
- ◆ 事件の真因、原因を知れ。
- ◆ 報道について。
- ◆ 加害者家族への接し方。

- ◆ 加害者・加害者家族には誰にでもなりうる。他人事ではないということ。
- ◆ 自分の行動を振り返ることや、先生のお話、大変為になりました。
- ◆ 犯罪が起こる背景・原因。否定・批判・比較を自分にも他人にもしないこと。
- ◆ 再犯の起こらない支援をしなくてはいけないということ。
- ◆ 加害者家族への支援する団体は、今までなかったこと。
- ◆ 加害者家族は、社会的に孤立し、支援を求めていることが具体的な事例からわかりました。
- ◆ なぜ事件が起きたのか・・・当事者として考えなければいけないと思いました。基本的人権の尊重、大切なことだと思います。
- ◆ 加害者家族のおかれた状況～真実のできごと(具体的な事例)を知れたこと。加害者家族を守るために、ここまで動いている人がいる。
- ◆ 加害者家族支援団体の存在を知ることができた。
- ◆ 加害者家族という意味。加害者と家族の関わり

- ◆ 被害者とか、被害者家族という言葉はいつも聞く言葉でしたが、加害者家族という言葉にさえも気にしていなかった自分がいました。
- ◆ 現状の理解。自分自身が何をすべきということまでは中々ストンと落ち切れていない。〇〇になりたいといえる生き方。
- ◆ 犯罪の裏に差別・貧困がある事が多いこと。
- ◆ 加害者家族にも人権があり、自由に生きる権利はあるが、身内で事件を起こすとなかなか外出も出来ないだろうし、ご飯も食べられないと思う。今までニュースで事件などを見ても、家族の事など考えてもみなかった。
- ◆ 加害者家族に対して、もっとやさしく見守る目を養いたいと思った。
- ◆ 事件の報道等をニュースなどで見る時、加害者の家族はどんな思いだろうと思うことがありました。でも加害者家族支援が今までなかったことに驚きました。報道内容等についても、うのみにせず、見方を考えていきたいと思います。
- ◆ 何となく加害者家族は大変だろうなと思っていましたが、どうしても処罰感情が勝り、考えないようにしていました。他人事ではなく、いつ自分の身に起こるか分からないということがわかりました。
- ◆ 加害者家族の人権については、今日の講演を受けるまでは考えてもいなかった。
- ◆ 加害者側に寄り添いすぎている面あり。客観的、冷静に、事実、背景を見極める必要あり。
- ◆ 加害者への支援の必要性。「世間に顔向けができない」←この意識の多さが加害者家族を苦しめる。
- ◆ 報道のほとんどが加害者本人に関してである。我々の関心は犯罪と加害者本人に偏っていることは発見である。もっと加害者家族についても思いをしなくてはならないと思う。
- ◆ 加害者の視点からの事例で、人権について新たな発見があった。否定・批判・比較。
- ◆ 加害者家族の支援団体が存在し、活動を10年近くも続けておられることを知ることができたことが大発見。被害者になるかも知れないし、加害者になるかもしれない……。明日のことはわからないと実感。
- ◆ やってはいけない事として、否定・批判・比較というお話しがありましたが、自己の肯定をするという事は、自己の判別であり、その裏には、否定と一体であり、又、自己の分析＝批判と考えておりましたので発見でありました。
- ◆ 加害者は、自分に非があるから社会的制約を受けることは当然ですが、家族の方は、非がないので社会的制約をうけることは有り得ないことは理解することが出来ました。加害者家族は、孫の代まで影響することの話は非常にショックなことであった。殺人犯の家族として生きるつらさ。
- ◆ 加害者家族という言葉を知りました。支援団体があるという事を知りました。
- ◆ 報道の内容が実際とは違うこと。小学校での問題など。
- ◆ 犯人さがしでなく、その事件の全体を見て、起きた原因、起きる背景をよく知ること。犯罪に差別が必ずある→しかし、殺人が一番重大な差別であると思う。
- ◆ 自分の近くに起こらないと考えてもみなかった事に気付きました。
- ◆ 単なる犯罪とひとくくりになっているが、その背景が様々あり、しかし実際は犯罪者家族としては、周りの目は同一視しているという事実を実感した。

- ◆ 加害者家族も大変であろうと思いながら、現実にある問題を知る機会がなかったため発見となった。
- ◆ 被害者家族の方を多く見たり聞いたりしていて、加害者家族のことは今まで聞くことがなかった。
- ◆ 差別がなければ犯罪はない。自分にも他人にも否定をしない生き方をしなければならぬ。
- ◆ 今まで犯罪被害者の人の声を聴き、加害者の家族の心ない言葉をきくことはあった。そういう人たちばかりではないことに改めて気づかされた。
- ◆ 加害者個人に対する支援の整備を法令等で
- ◆ 自分は被害者の事ばかり(家族など)気になっていた。
- ◆ 加害者の人権というものが必要だということに、なるほどなと思った。日本に無かったことが意外だった。
- ◆ 被害者の話は多く聞くが、加害者家族の苦悩を取り上げることは初めてで、ちょっとびっくりした。
- ◆ 報道だけにとらわれてはいけないと思った。何ごとも否定や、批判ばかりされると心が壊れると思った。
- ◆ 罪を犯した人へのマスコミの辛辣なる取材、ワイドショー等によるプライバシー無視の度重なる報道、その結果、罪を犯した本人のみならず親族への誹謗中傷など、事件の影響が際限なく広がり、事件の起因するものは、おざなり。容疑の時点でのマスコミの取り上げにて事件の真相と異なることも多い事実を学んだ。「罪を憎んで人を憎まず」の教訓も大切である。
- ◆ 加害者家族の苦しみが現実としてわかった。
- ◆ 個人が個人のみで受けとめられることが大切であること。必要なのは犯罪が起きてしまった原因を知ること。(背景・感性・境遇)
- ◆ 漠然としていた加害者家族の人達の大変さ。心情等が理解できた。
- ◆ 家族が大変な状況がこれほどまでになるとは思わなかった。
- ◆ 報道の内容が事実をどこまで正確に伝えられているのか。伝わる情報、伝えられる情報の恐ろしさを感じました。
- ◆ 支援団体のある事は初めて知りました。
- ◆ こういった団体があるのか、と話を聞いて関心を持った。
- ◆ 被害者の家族のことを考えることはあっても、加害者の家族のことを考えることはなかった。
- ◆ 家族の自殺
- ◆ 加害者側の苦勞。差別などを知ることができた。
- ◆ 加害者家族の自殺など加害者家族が苦しんでいることはあまり知らなかった。
- ◆ 加害者家族は(差別を受けて)当然だと思っていました。
- ◆ 加害者家族支援団体があること。
- ◆ マスコミの有り様が個人及び世間の動向に大きく影響を与える。「否定され、批判され、比較され」
- ◆ 報道される事件の事実は、事実ではない。なぜそれは起こったのかの理由にはなっていない。

- ◆ 家族の責任を整理するということが一私も障害者支援をしながらいつも考えることです。否定・批判・比較しない、もっともです。
- ◆ 本人さんは一生懸命に仕事に当たっておられるのですが、話が早くて私には無理でした。
- ◆ 加害者家族の人権を支援する団体がある事を初めて知った。
- ◆ 加害者家族支援で 13 条の個人の尊重という団体がある事は自分は初めてです。
- ◆ 情報のあいまいさが変な方向に解釈させてしまう危険があるということ。
- ◆ 加害者を守っているだんたいがある事を初めて知りました。また活動されている様子を聞きながら、大変な仕事であり、当事者に成り代わっての思いを訴えられている阿部さんの講演を聞き、改めて自分の行動を反省してみました。行動を興す！

◎講座に満足できなかった理由を教えてください。

- ◆ 被害者本人・家族に対して、加害者・家族の思いが伝わらなかった。
- ◆ レジメ等今日の 2 時間の流れのようなものがあれば、もう少し話がわかりやすかったと思う。話を聞くだけでは辛い。スライド等もあったら良かったかな。
- ◆ 受講者が少し多く、息苦しさを感じた。
- ◆ 1 時間半をただ黙々と聞くとすることは辛い。少し中間にでも遊びを入れて欲しい。例えば座ったままで軽く手足を動かすとか、歌でもうたい声を発するとか。要点をくり返し言ってもらいたい。小さい声とか早口だと、要点が把握できなかつたら、その言葉は無に等しく、残念です。
- ◆ 室内が暑い。
- ◆ 少し会場が蒸し暑い感じがした。
- ◆ 加害者家族に対してどのようなケアをしたかの点が十分でない。
- ◆ 疲れていて(申し訳ないのですが) ねむけに勝てませんでした。
- ◆ レベルが少し高かった。
- ◆ 途中休憩がほしい
- ◆ 地域的な事もある。年齢等にも考え方の違いもある。
- ◆ NPO を立ち上げ、加害者支援をする中での成果を聞きたかった。
- ◆ 一方的な講座なので、間にみんなに話の共有があつたら疲れない。
- ◆ 会場が広いので、前の方は良いと思いますが、後ろは聞きにくいときもありました。口調が早すぎるようにも感じました。
- ◆ 内容の話の進み方が難しい(具体的に話せないところがあるのかも知れないけど)
- ◆ 考えさせられました。
- ◆ 人が多く、席がなかった。書くのに大変だった。
- ◆ 話し中心だから、視覚にも訴えてほしい。
- ◆ 一緒に袋に入っている(荷物)パンフレットは不要だと思います。
- ◆ 事例によるその後、具体的な支援とその結果(良くも悪くも)をもっと聞いてみたかったです。

◎犯罪加害者家族への批判・誹謗・中傷はなぜおこるのでしょうか？

※この分類は職員が行ったもので、読み易くするために簡易的なものであることをご了承ください。

家族・家庭に責任があるという意見

- ◆ 事件により、それぞれ中傷や批判も違うと思う。無差別に人殺しなどする事件では、やはり家族は何も気づかなかったのか？など、自分でも批判してしまう気がします。もし、自分の家族が殺されたら、きっと本人・・・家族にも怒りがあると思う。難しい問題だと思うが、この講座を受けて考え直してみようと思います。
- ◆ 犯罪者を生ませた環境＝家族の環境(育ち方・教育 etc)の悪さと同一視しているからだと思う。
- ◆ 自分の心の中に、犯罪加害者の家族は、この次も同じことを繰り返す可能性があると思込んでいるのではないか。親がしたことと同様に子供も犯罪をするのではと思込込みが心の中にあると考えます。“親が親だから、子と同様であろう”ということを知くことがある。
- ◆ 加害者の家族なので、同様に言いやすいと思う。
- ◆ 犯罪を行つた人を育てたのが、その家族の場合が多いから。なぜそのように育てたのかという批判。
- ◆ 被害者と家族は同じ苦しみを持っていると同様に、加害者の家族にも責任があると思てしまう。家族は無関係(特に子ども)なことも多いのに・・・。
- ◆ 犯罪者の生活環境がわかつたことに、近い家族が気づかなかつたのかと思つたことがあります。ただ自分も、小さな事件ではあつても加害者支援にまわること多々あり、家族は責任を負えないと思つたこともあり、家族の対応の悪さにびっくりすることもあり、家族を信用できないと思つたことも。批判・誹謗中傷はなにも生みません。
- ◆ 家族として犯罪加害者にならないよう助けられなかつたのかという批判から(事件の背景とか深く理解することなく、また加害者家族の立場に立つて考えることなく)無責任な誹謗・中傷となると思つます。単なるニュースとしてとらえているから。

世間に対する責任・社会的モラルや文化の問題・懲罰意識によるという意見

- ◆ 家族の中に一人犯罪者が出れば、全て全員が犯罪者という見方が出ているのではないかと思つます。それは今の世の中、個人として尊重されることがないからではないのかと思つます。
- ◆ 犯罪加害者家族も犯罪者同様に見られてしまうから批判・誹謗中傷を行うのでは？
- ◆ 犯罪の内容によると思つますが、どうしても処罰感情がたまさるのではないか。
- ◆ 勧善懲悪。理不尽ではあるが仕方ない面がある。
- ◆ 我々の中にある、世間様に後ろ指をさされない意識の裏返しではないでしょうか？
- ◆ 事件の真相を知らないのに、殺人などは悪いことだとしか思えないから。
- ◆ 自分の正義をぶつつけられる弱い立場の相手を見つけて行うのでは。
- ◆ 世間の多数の意見と自分の意見が一致しているという安心感
- ◆ 批判をすることによって、自己を守る、感情を共有しようとしているのだと思つます。

- ◆ 家族体系を重く扱ってきた日本の風土からきているものもあると思う。家と家のつながりの方が強い感じがする。結婚話等。個人と個人の間は薄いのかと思う。
- ◆ 長い間の習慣と、上辺だけの見方で事を処理する、深く掘り下げる見方が出来なかった。
- ◆ 個人個人独立した人格であり、別の人間であるという。人を独立した「個」としてとらえる考えが確立できていないように思う。集団としてとらえ、個としての責任がとらえきれないと思う。

加害者や加害者家族と関係がない、または薄いから、無責任に批判するという意見

- ◆ 自分には、周囲には、起こりえないこととしてとらえているから。
- ◆ 加害者家族のおかれている状況について、わかろうとしていないから。
- ◆ 加害者側の本当の気持ちになれていないからだと思います。
- ◆ 自己防衛(まわりの話に合わせる)自分は大丈夫だという無責任な考え。
- ◆ 加害者の真実を知ろうとしないから。
- ◆ 他人事であり、自分を相手の立場に置き換えて考えることをしなかったり、できなかったりだと思う。
- ◆ 自分の家族は加害者にはならないとおもっていることが第 1 の原因と思う。誰でも加害者になる可能性があることを肝に命じるべきである。
- ◆ 自分はある事はないと思った。
- ◆ 自分のこととして考えられないことが原因となっていると思います。
- ◆ 自分の思うようにならないためなのかな・・・。
- ◆ 自分に責任がないから言いたい放題。
- ◆ 他人の事として無責任な態度である。
- ◆ 自分で経験、体験していないから。
- ◆ 加害者家族に自分が置かれた事がないので想像できない。今までも考えた事はありません。
- ◆ 被害者の立場に立てば(自分と直接関係なくても)そのいきどおりをぶつけること、TVのニュースを見ながら、もんくをいうことはある。つい、周りの人がなんとかできなかったのか?と思うようなニュースも多く、自分が裁判官にでもなったつもりで、つい口から出てしまう。今はネット社会でもあり、無責任に発信できることがこれをさらに悪化させているのでは。

加熱する報道・曖昧な報道に便乗しているからという意見

- ◆ 犯罪の結果しか知り得ないから、その結果について判断するしかない。
- ◆ 講演から、伝わってくる情報は極一部である事が理解できた。新聞やテレビなどの情報を真実と思い込んで判断するので・・・が現状です。
- ◆ ワイドショーなどでの報道で、加害者家族に問題があるような報道など見て、何も考えずに中傷するのではないかと思った。
- ◆ 加害者の思い、行動などが世の中に正しく伝わってこない事が批判、中傷につながっているのではないのでしょうか。
- ◆ テレビ等によって「なるほど」と思わせるような内容があり、それを先入観として

受け入れ、家族も悪いように考えてしまう。

- ◆ テレビなどの報道が(ワイドショー)表面だけで一方的である。その人(犯罪を犯した人)生活背景や、人柄について触れることがないから。一方的に悪という報道しか知らされないから、そのような思考や言動になると思う。

退屈しのぎ、興味本位、ストレス発散、差別意識から批判しているという意見

- ◆ 興味本位だけで行動する人がいるからだと思います。
- ◆ 加害者はともかく、その家族へ批判や誹謗中傷をするのは、加害者家族への差別意識があると思います。(親が殺人者なら、子どももその可能性が高いなど)また、マスコミ報道のあり方、加害者や被害者の人権をそれに左右されない自分になりたいと思います。
- ◆ やはり差別があるのではないのでしょうか？少しでも自分が上に立ちたいとか・・・。
- ◆ 自分や自分の家族じゃなくてああよかった・・・という気持ちがあるから。人を攻撃することで、自分のストレスを発散する人もいる。ネットに書き込んで、誰が発信しているか、他の人にばれることはないからエスカレートする。
- ◆ この際、対人に対して優位に立ちたいという差別意識が根底にあると思われる。
- ◆ おもしろ半分。日常が平凡に過ぎて変化を求め。思考能力が低い。相手の立場を理解していない。一辺倒しか聞いていない。
- ◆ 興味本位もあると思う。報道のいきすぎをいつも感じている。
- ◆ 妬みが大きいのと思う。他人の不幸は蜜の味と言うのは日本人の特徴なのか興味があります。
- ◆ 自分のことに置き換えて考えていない。人の事と思っているのでそういった批判等ができるのではないかと思う。
- ◆ 劣等感を抱えているから、他人の弱いところを見つけて、発散の場を与えられると喜んで批判するのではないかと思います。
- ◆ 自分はそうではない、違うという優越感。自分は正しいことをしているという優越感。
- ◆ 自分自身が幸せではないから、もしくはヒマな人間・・・。

その他の意見・現状分析など

- ◆ 被害者本人・家族の場合にも、批判や誹謗中傷が現実では多くあると思う。
- ◆ 罪を犯した人はいけませんが、家族には批判をするべきではないと思う。たとえば事件ではないが、離婚した夫妻の子ども、たとえば私の子どもの同級生に対し、私は私の子どもに対し、今まで通り話をするように必ず言います。家に遊びに来てもらってもいいよとも言っています。今娘は“アネゴ”のようになっています・・・笑
- ◆ 人を大切にしていないから。自分自身も大切にされていないから。
- ◆ 過度なTV報道などを見ると、そうだそうだと集団的心理で中傷してしまう。しかし昨今、どうして?と思えるくらい、すぐ刺した、なぐった、殺したという様な事が多すぎます。ついつい昔はこんな事は考えられなかったよね!と思います。人を大切に思う心がなくなっているのでしょうか?
- ◆ 常に自己中心の心で物事を捉え、思い通りに生きたいという概念が強い生き方が蔓

延している。自制心が不足している状態。「お互い支え合い、相互依存しながら生きていく」自・他ともに心豊かな社会を目指して頑張りたい。

- ◆ いつだれが会おうか分からないので、人の事を中傷しないこと。

◎感想・講師へのメッセージ等

- ◆ 新聞にも記述にあるように「切り捨てるのは簡単。しかし被害者と加害者家族、両方の支援があつてこそ、個人を尊重する成熟した社会なのではないか」とあります。個人を尊重していく、一人一人の人権意識を育てていくことが大切だと感じます。当事者を生きやすくするのも、生きにくくするのも、周りの人たちや制度、環境によって左右されると感じます。また報道等にすぐに影響されるのではなく、自分自身で物事を判断できる主体性を身につける必要があると思います。本日の講座に参加させていただき、加害者家族の問題をくわしく聞くことができました。これから、関心を持って考えていきたいと思います。また社会には様々な差別が存在します。他人事ではなく、当事者意識をもって、考え、行動できるようにしていきたいと改めて感じさせていただきました。本日はありがとうございました。「否定しない。批判しない。比較しない」このことも意識していきたいと思います。
- ◆ これからの保護司の役目として、大変役立つお話しでした。講座で学んだことをいかに、寄り添っていこうと思いました。ありがとうございました。
- ◆ 加害者家族支援団体という団体があることを初めて知りました。阿部恭子さんが、熱意を持って取り組まれていることをひしひしと感じました。家に持ちかえって、家族でも今日のお話しされたことを話したいと思いました。本当にありがとうございました。
- ◆ 帰宅して、先生のお話をもう一度起こしたいと思います。大変よい講座を開いていただき有難うございました。
- ◆ 君は君のままでもいい。0点でもいいと。個人をまるごと受け入れる、心の広さを持ちたいと思います。仕事でも子育てでも。
- ◆ 孫がいて、第三者として接しています。自分の子のときはわからなかったのですが、素直な子どもに育ててほしいと思っています。難しいなと思い、子どもと一緒に育てたいと思っています。
- ◆ 本日の講演を通して、社会の中にある真実を知る機会を得ることができました。ありがとうございました。
- ◆ いくつかの分かりやすいキーワードを通して、講座の内容を理解することができた。
- ◆ 私たちはいつでも加害者になり、また加害者家族にもなりうるということに気づかされました。しかし、加害者のケアは家族しかいないということ、それには個人が個人として受け入れられ尊重されることが大事ということを知られました。ありがとうございました。
- ◆ 加害者家族との関わり、今後とも努力をお願いします。
- ◆ 報道のあり方について述べられたが、では具体的に私たちに何ができるのか、どうしたらいいのか？
- ◆ 今日の話聞いて、もし家族の誰かが大きな事件をおこしてしまったらと思うと、本当におそろしくなりました。まだ被害者の家族になる方が楽なのではないか？ど

ちらもまだかかわった事がないので、よく分かりませんが、毎日、ニュースで事件が起こり、その度に悲しい思いをされている方は本当たくさんいるのでしょうか。自分もお話を聞いて、困っている方の力になれば・・・と思いました。

- ◆ 「加害者家族への思い」を改めて考えさせられました。罪を犯した家族にはもっと優しい目を持つことを考えさせられました。
- ◆ これからも頑張ってください。今日お聞きした事、忘れずにいます。ありがとうございました。
- ◆ ありがとうございました。比較・批判・否定をしないようにしていきたいです。
- ◆ 本日の講演、誠にありがとうございました。加害者家族の人権についての人権学習はこれまで受講の経験がなく、良い人権学習が出来たと思います。
- ◆ 何かあったら、お願いしたいと思っています！
- ◆ 感情に流されず、客観的に物事を見てほしい。DV・虐待の連鎖、家族の問題への対応。WHOの活動が社会の犯罪防止、減少につながりますか？社会のためになる活動を望む。
- ◆ 差別は、受けた者にしかなかなかかわからないのではないのでしょうか？これからも人権活動頑張ってください。
- ◆ 事例を基に話されたが、話されるポイントがもう少し理解しにくい。
- ◆ (1)加害者の悩み①被害者への対応、だけ話され、犯罪動機の大切さ、報道についての話になっていきました。②③は何でしょう。②被害者とのかかわり③世間での生き方・・・？？ははっきり話しきってほしかった。(2)加害者支援法をせいでいさせてください。(3)話の内容は素晴らしいので、組立をもっと工夫してください。
- ◆ 視覚を取り入れた講演を考えられたら良いのでは・・・。聞き放しの講演は疲れるし、身に入りにくいと思います。
- ◆ 現実、加害者家族に接しておられるので、話の内容がよく理解できた。
- ◆ 被害者支援については、これまでいくらリーフレットなどを手にすることがありましたが、加害者支援については本日詳細を知ることができました。行政をも巻き込んで、啓発をしてほしいと思いました。誰もが加害者になりうる時代です。このような支援はありがたいです。
- ◆ 大変な仕事ですね。
- ◆ 誰でも、その立場になる可能性は充分あると思います。その事を考え、自分が大切と同じ、他人も大切にとの考えを持たなければいけない事に気付かされました。
- ◆ ワイドショー的な報道は確認した事でなく、真実以外については差し控えてほしい。
- ◆ 無理をする、努力をする、紙一重と思います。
- ◆ 家族の責任について厳しすぎる面があると思う。
- ◆ 周囲の偏見・考え方をいま一度考える。マスコミ、メディアの報道のあり方(正しい情報を)
- ◆ 偏見で見る事はやめたい。

第2回「永遠水平のために～松本治一郎と部落解放運動 100年～」

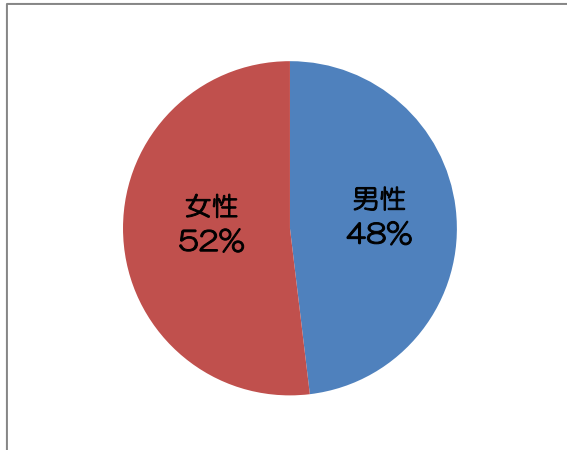
講師 作家 高山文彦さん

講座アンケート結果

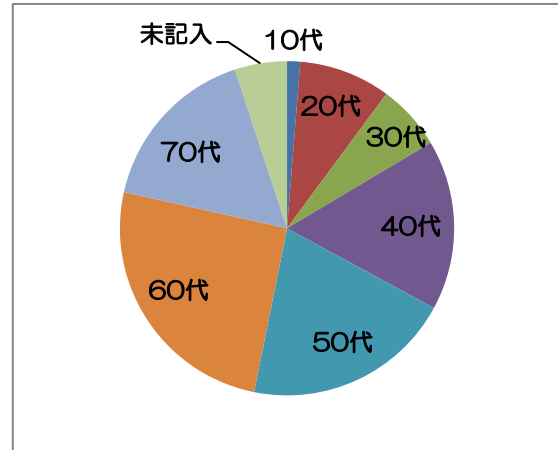
当日参加者数 101名

アンケート回収数 79通 満足度平均（100点満点中） 76.8点

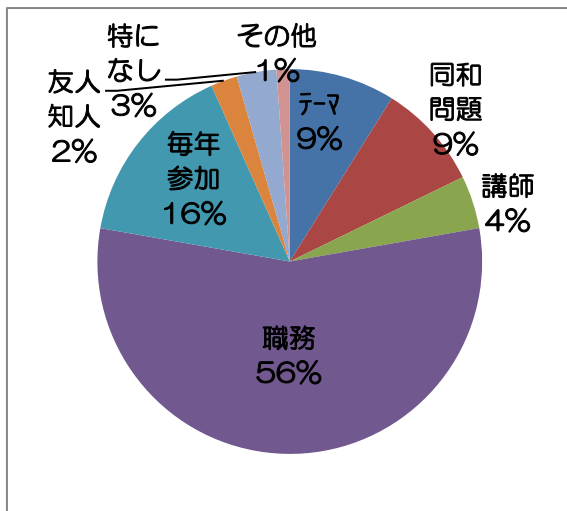
男女別参加者数



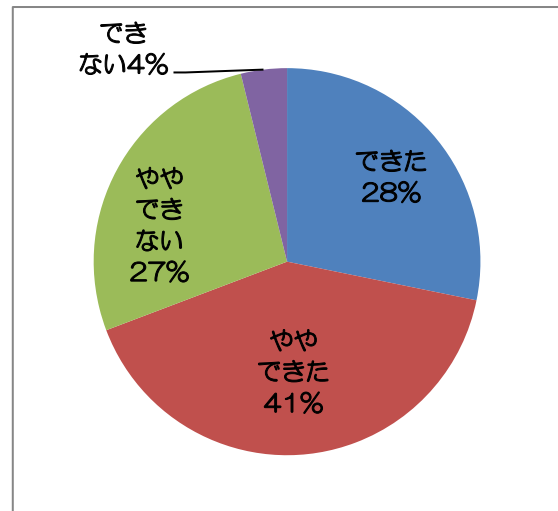
年代別



受講動機



講座の内容が理解できましたか？



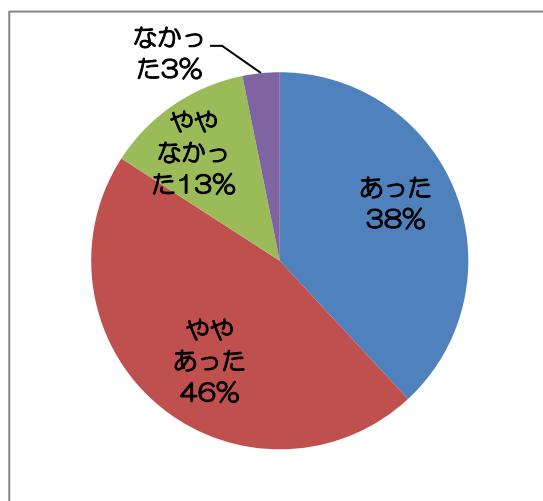
◎理解できなかった理由

- ◆ 部落差別でどうなったか？とか実際の体験などを聞きたかった。ハンセン病の話が長すぎて良くわからない。
- ◆ 私には難しすぎてあまり理解できなかった。すみません。
- ◆ 話が難しく、本来の部落解放についてわかりやすい話をしてもらいたかった。
- ◆ 少し人の名前が多くて昼食後の眠気の中では整理がむずかしかった。小説を読みたいと思った。
- ◆ 話が分散。ハンセン病にかたより
- ◆ いろいろな人の名前も出てきたりし、難しい話が複雑に感じ、わかりにくかった。何も見る資料がない中で、話しもいったりきたりと、話がつながりにくく、以下の問いに回答しにくい。
- ◆ 話が難しかった。

- ◆ 話があちこちする感があり、少しむずかしい気がする。固有名詞が次々に出てくるがみんなわかったかな。
- ◆ 北条民雄、松本治一郎、笹川良一の人物像をもっと詳しく聞きたかった。
- ◆ 話が広くいろんな話をされて頭の中でまとめきれなかった。
- ◆ 日常考えていなかった。さまざまな名前が出て混乱した。
- ◆ 知らない人の名前が多かったです。
- ◆ 無知なテーマだったため難しかった。
- ◆ タイトルと講座の中身が良くつながらなかった。
- ◆ むずかしかった。
- ◆ 時代があっちこっちに行ったように感じた。時代の流れが少しわかりづらかった。
- ◆ たくさんの人の名前が出てきて関係を懸命に考えながら聞きました。各々では理解できたが、全体的には難しかった。
- ◆ 初心者には内容が難しかったです。話の進め方も良く分からない。
- ◆ 中身が連続して理解できなかった。個々が断片的に感じた。

講座からなにか発見がありましたか？

◎どのような発見がありましたか？



- ◆ 自立した考えが必要であること。
- ◆ 松本治一郎、笹川良一の活動を初めて知った。
- ◆ 差別撤廃の特効薬はないこと。
- ◆ 同和問題の底の深さを再認識。
- ◆ 事実の裏が有ることが解った。
- ◆ 自分の心の中、考え方を変える。
- ◆ 被差別部落がどのように作られたのかの考え
- ◆ 歴史、人とのつながり

- ◆ 身近な問題として見つめ直していかなければいけないと思った。
- ◆ ハンセン病は、薬や知識により、差別はなくなっているということ。しかし、部落差別は、薬や知識では解放されないということ。
- ◆ 高知県赤石の事は知っておりました。
- ◆ 部落が最初にできた理由がおぼろげながら解ったような気がした。
- ◆ 差別は人が変わらなければなくなる。自分の下に人がいると安心するのが人間であると思う。人の良心がなければ病気が治っても社会の病気は治らない。
- ◆ ハンセン病については一昔前の状況は聞いたことはあったが、現在の取り組みについてはあまり知ることがなかった。今日聞けてよかった。
- ◆ ハンセン病は治る病気だということ。
- ◆ 松本治一郎についてももっと知りたくなった。笹川良一＝反戦思想
- ◆ メディアの報道ばかりに左右されてはならない事を気づかされた。

- ◆ 差別の一つにハンセン病があったとは知らなかった。
- ◆ 人権とは考え続け、想像し続けなければならない。
- ◆ ライ病と差別は同じ
- ◆ まだまだ人間の命を考え知る必要があると思います。法華経(生命論)の中に本当の平等を思います。
- ◆ 被差別部落とハンセン病とのつながり。松本治一郎と笹川良一との関係。長崎が植民地であったこと。差別問題に特效薬はないとのこと→「人間の良心が？」
- ◆ 表現はむずかしい
- ◆ 松本治一郎さんのことについて良く勉強になりました。
- ◆ ハンセン病と被差別人とのかかわりが大きかったことが良く分かりました。
- ◆ ハンセン病については今まではあまり考えたこともありませんでした。
- ◆ ハンセン病は治る病気である。でも病気は治っても差別は残る。
- ◆ 人間の想像力と良心が差別を無くしていく。
- ◆ 差別・へん見に特效薬はない。一人一人が考えていくことだと、松本治一郎との関わりの方がよくわかった。
- ◆ 本棚に眠っていた笹川良一さんの本をもう一度目を通してもらいます。
- ◆ ハンセン病患者と被差別民の相通ずる問題。
- ◆ 松本治一郎さんを知ったこと。北条民雄と川端康成の交流など。
- ◆ 「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことを知ることができた。
- ◆ 疑問を感じたことを信念を持ち続ける必要性。
- ◆ ハンセン病の特效薬を全世界に今も送り続けていること。
- ◆ 人は生きているということ。
- ◆ ハンセン病のこと。笹川さんと松本さんとの関係(極右と極左)
- ◆ 差別の特效薬はないが、人間の創造力と良心が大切という。
- ◆ 病気が治っていくことや、事業が拡大していくことだけでは本当の意味では差別はなくなる。人権は確立できないということ、やはり人権擁護等の理念を大切にしていくなこと、みんなが深く考えていくことが最終的には大事なことであると思った。
- ◆ 「正しい知識を持つことが差別を撤廃することにつながる」ということが納得できました。
- ◆ 松本治一郎と笹川良一の関係は知らなかった。人間の尊厳を本気で見つめた人どうしは立場が違えど相通じるものなのかなと思った。
- ◆ 部落解放を積極的に推進しなければいけない。
- ◆ どうしても話がつながらなかった。多岐すぎた。

◎講座に満足できなかった理由を教えてください。

- ◆ 自分には難しい話すぎてねむくなりました。ハンセン病は今は治る病気ということを知った。
- ◆ 講師の方が暑そうでした。
- ◆ 今日の講座はハンセン病についてだったのですね。
- ◆ 自分の不勉強です。

- ◆ 日常生活からいきなりハンセン病のことについてお話しを聞きました。ちょっとレベルが高かったような気がします。
- ◆ 講師の方は、よく分かった上に話されるのですが、分からない者に伝える話し方でなく、何かポイントを置く点を決め話していただいたほうが、少しでも理解できることが出来たのではないかと感じました。
- ◆ 部落解放運動と言う大きな題材の一部しか聞けなかったのかなと思う。
- ◆ 松本治一郎の話をもっと聞きたかった。
- ◆ 部落差別とは全国にあると思うが、長崎中心の差別部落のような話であったように感じた。全国では？現在身近では部落差別はないように思うが。
- ◆ 高山さんは大変深い知識を持っておられるようですが、時間が少し短いと思った。
- ◆ 歴史をよく知りたい。
- ◆ 満足できました。
- ◆ 松本治一郎が部落解放運動に具体的にどの様にかかわりを持って運動されたのかももう少し聞きたかった。
- ◆ 私にとっては難しいテーマだったので理解できなかったから。知らないことを知るという意味では勉強になった。
- ◆ 話が色々とんでわかりにくかった。自分が勉強不足だと感じた。
- ◆ 一方的な話で眠気をもよおした。もう少しビデオ等があったら気が紛れたのでは。
- ◆ 室内が暑かったです。
- ◆ 話があっちこっちに行き少し難しかった。
- ◆ やはり内容が難しい言葉などが使われるため休憩があった方が良かった。
- ◆ 視覚的なものがあると分かりやすかった。
- ◆ 少し難しかった。講師の作品を読んでいればもっと理解できたかも。これから読んでみようとは思いますが。
- ◆ 今日は頭の中で人物や場所が繋がったのでおもしろかった。
- ◆ 内容が高度すぎた。

◎現在、同和問題について、どういったことが起きていると思いますか？

- ◆ 良くわかりません。
- ◆ わかりません。
- ◆ 直接生活にかかる問題は感じていません。
- ◆ 差別意識が少なくなったようです。
- ◆ 結婚差別
- ◆ よく解らない。
- ◆ 若い人たちの同和問題をどう思っているのか知りたい。
- ◆ 昔、三次に飲みに行った人が、仲間同士で「おっさん」と言ったら他のテーブルで飲んでいた男性が、おっさん言うたと因縁をつけられ会社まで来たと聞いたことがある。差別すると言われても逆の人にもこんな人もいるのでお互い様と思う。「おっさん」とは差別言葉ですかね？テレビでもよく使っているが。
- ◆ 分からないが、まだ何かあるはずと感じる。

- ◆ 問題は潜在化し、根深く残っている。えせ同和の問題もある。
- ◆ よくわからない
- ◆ 分かりません！！
- ◆ 表面的には同和問題は解決されてきているように思われるが、結婚等についてはまだ差別的な考えを持っておられる人もある様に思います。
- ◆ 連続講座を受けるまではあまり思った事はありません。今後は本等を読んでいきたい。
- ◆ 表面上はないが、心の底には正直意識する。
- ◆ 表面的には昔に比べるとなくなっていると思いますが、かえって根は深くなっているのではないかと思うことがあります。
- ◆ 同和問題について今何が課題となっているのか、勉強する機会が少なくなったと思う。知識がなければ知らず知らず差別をすることになるのではないか・・・心配。
- ◆ やはり根強い差別があるような気がする。(年が多いほどその傾向が強い)◎すばらしい作家だと思った。資料も見ず90分話されびっくりしました。
- ◆ 表に出にくくなっているが、その分深刻と考えている。
- ◆ 表面的には静かだと思いますが、やはり、いざという時は出てきてると思います。※地区の方々いろいろな有利的な(お金を安く貸すとか・・・)そんなことをしたらよけい解ってしまうのではないかと思います。近所の当事者さんから聞いた。
- ◆ 不勉強で特には思いあたらない。
- ◆ 「触らぬ神にたたりなし」的な感じで、みんなが無関心を決めつけていると思う。
- ◆ 結婚差別事件と最近出会った者として、この事実を受けとめる必要を思っている。
- ◆ 十分にはわからないが、若い世代と年輩の世代で同和問題への認識や関心が大きく違ってきているのではないかと思います。
- ◆ 表だって語られることは少なくなっているのかもと思いますが、実際にはまだまだ続いていると思います。
- ◆ 結婚・仕事→実際に友達が結婚できなかった。
- ◆ インターネット上の差別的な書き込み。部落地名総監のような資料の流布。
- ◆ 結婚問題。地域の振興会での活動(ボランティア)
- ◆ 話を聞かなくなった。福祉関係の仕事同様“すべての人の人権”

◎感想・講師へのメッセージ等

- ◆ 1年を通して5～6回ぐらい必要。継続して。
- ◆ 本を読みます。
- ◆ 今少し「松本治一郎」の姿が浮かぶ部分が聞ければと感じました。
- ◆ 正しい知識を持つことが、まず第一歩だと思った。まず関心を持って、いろんな本を読んでいこうと思いました。ありがとうございました。
- ◆ 非常に貴重なエピソード等お話しいただきありがとうございました。あらためて松本治一郎さんの業績は大きいものだと感じました。
- ◆ 会場が暑かったのではないのでしょうか？講師が何回も顔の汗をふいておられたのが気になりました。
- ◆ 「病気は治しても差別は残る」→「特効薬はない」

- ◆ 笹川良一のイメージは悪かったが、歴史を聞くと少しいい人かなと思う。一人の歴史を調べるとその時の時代背景がよくわかった。
- ◆ 繰り返し学習することが大切であると感じたため受講しました。ありがとうございました。
- ◆ 部落差別解消推進法には賛否両論あります。否については罰則規定がないので実効性がないという点です。先生の話聞いて少し考えが変わりました。しかし精神論で事態が変わるかなあとも思っています。だからこそこの法をどう育てるか活かしていくかが大事だと思います。残念ながら法の成立を知っている人が非常に少ないのが現状です。もう一度勉強してみます。私は「エレクトラ」を読んで中上文学の背負った宿命のリアリティーに圧倒されました。ありがとうございました。私の勤める広島県立西高校(通信制)には、多くの被差別部落の人々が学びました。私の部落との出会いの原点です。今その歴史を読み解いているところです。本にまとめてみようか。と考えているところです。
- ◆ 講演会を主要会館のみでなく、地区集会にも参加してほしい。
- ◆ 熱心なご講演ありがとうございました。
- ◆ “笹川良一” 久しぶりに話を聞いた。若い頃聞いた話よりか身についた。“ハンセン病” に関しても、私は昔から間違った施策だと思っていました。今は治療可能な薬がある！誰かの努力があった。喜ばしい。